



教室のご案内

川の生き物教室

(要申込：定員20名)

8月4日(日) 午前9時～11時30分

※水に濡れてもよい服装

バードウォッチング (自由参加)

7月28日、8月25日(日)

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤

7月下旬になると日当たりのよい湿地にサギソウが開花します。サギソウは観賞用にも栽培されますが、乱獲などで数が減少し準絶滅危惧種に指定されている貴重な花です。ランの仲間です。数枚の細長い葉を根元近くにつけ、中心からまっすぐに伸ばした茎の先に数輪の花を咲かせます。花は純白で唇弁の先端が三つに割れ、その左右の裂片には多数の深い切れ込みがあり、この様子が白鷺(しらさぎ)のダイサギ・チュウサギ・コサギの白い三種類のサギの総称が翼を広げた姿に似ていることからサギソウと名付けられました。

サギソウの花言葉は「無垢」「清純」「夢でもあなたを想う」などがありますが、「夢でもあなたを想う」という花言葉は、戦国時代の悲しい伝説に由来します。その伝説は――お姫様が助けを請う文を白鷺の足に結び付け空に放したものの、白鷺は射落とされ、お姫様も亡くなりました。後日、白鷺が射落とされた地からサギソウが咲くようになり、「白鷺がサギソウに成り代わり、亡くなった姫のことを想って咲いている」と伝わるものです。純白の美しい花に出会うと、悲しい伝説が思い出されます。

悲しき伝説の純白の花 ―サギソウ―

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



▲中央の窪みが窯跡

隠居山須恵器窯の発掘調査



▲出土した平瓦片(7世紀末～8世紀初頭)

現在休館中の美濃陶磁歴史館では、膨大な量の収蔵品を仮収蔵庫へ移転するための準備が急ピッチで進められています。そしてその作業と並行して、新博物館における新しい展示の準備も鋭意進めています。

これまでの美濃陶磁歴史館では常設の歴史展示がありませんでしたが、新博物館では土岐の歴史と美濃焼の歴史の双方を伝える常設展示が設けられることになりました。しかし、この常設展示を作る上で、実はまだよく分かっていない事柄がいくつも残されているという問題がありました。

分らないことを解き明かしていくためには、調査し研究するしかありません。ということで、昨年度に行った第一弾の発掘調査は「隠居山須恵器窯」でした。7世紀前半の美濃焼始まりの窯の発見を目指した結果、目的とは異なる別の発見へとつながりました。7世紀末から8世紀初頭の瓦窯が見つかったのです。これは全く未知の古代寺院の存在を示す大発見でした。

謎の解明を目指したら新たな謎が生まれた。そんな状況ではありますが、今年度も地道な調査を続けていく予定です。

第3回 新しい展示と発掘調査